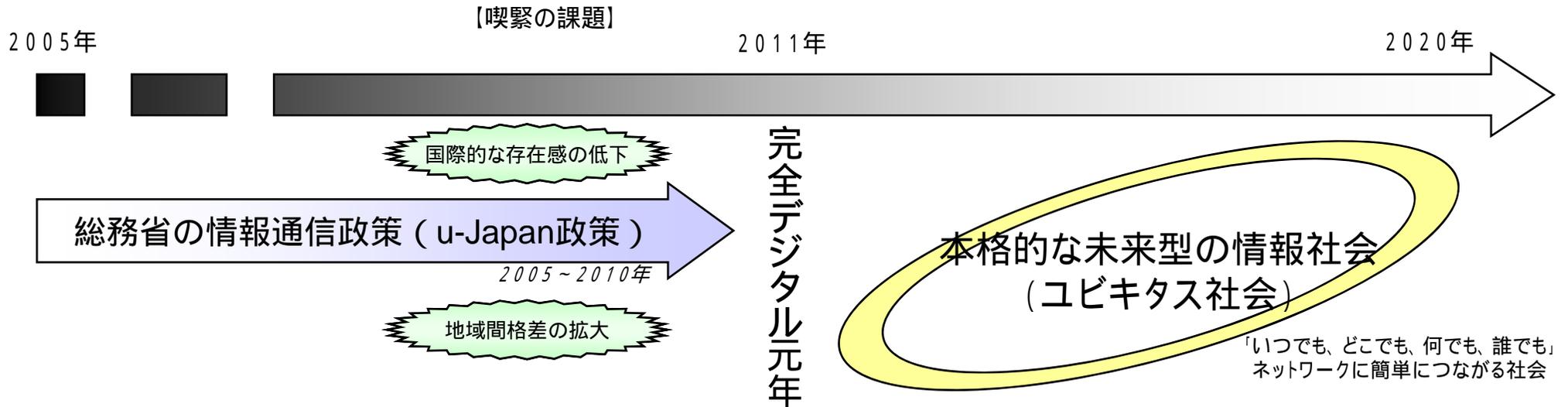


「現状評価」及び「社会の将来像」 に関する進め方(案)

総務省 情報通信政策局

懇談会における検討課題

2011年の完全デジタル元年に向けて、総務省の情報通信政策（u-Japan政策）を展開中。
2011年以降の社会像を明らかにし、「成長力強化」への道筋を大仕掛けで策定すべき時期。



懇談会の検討課題

検討課題：現状評価

- ・わが国の情報通信社会の現状把握
- ・u-Japan政策の評価

検討課題：社会の将来像

- ・完全デジタル元年以降に追求すべき社会像
- ・産業、技術、サービス、ビジネスモデル等の方向性

「成長力強化」への道筋をオールジャパンで策定

検討課題：政策の見直し

- ・ICT新成長戦略（u-Japan政策の見直し）
- ・重点推進分野、府省連携施策等の設定

検討課題：緊急的対応

- ・成長力強化（経済成長や地域活性化）に直結する情報通信政策のメニューの検討

「u-Japan政策」の概要

2010年には世界最先端の「ICT国家」として先導

目標

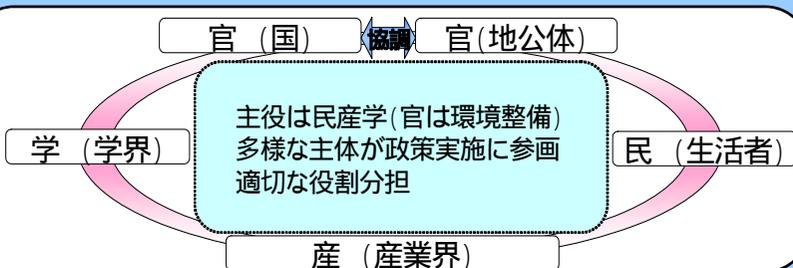
2010年までに国民の100%が
高速または超高速を
利用可能な社会に

2010年までに国民の80%が
ICTは課題解決に役立つと
評価する社会に

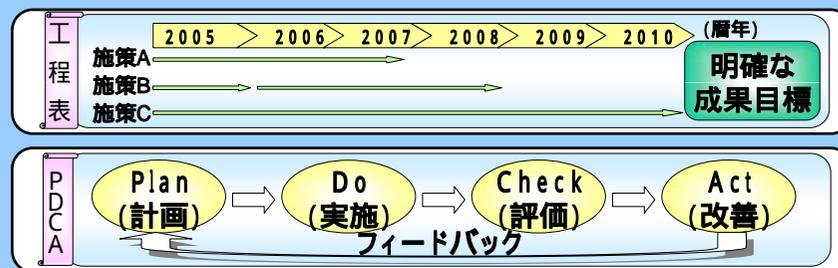
2010年までに国民の80%が
ICTに安心感を得られる社会に

実施の在り方

民産学官の有機的な連携



工程表とPDCA



u-Japan
政策パッケージ

ユビキタスネットワーク整備

- 有線・無線のシームレスなアクセス環境の整備
- ブロードバンド基盤の全国的整備
- 実物系ネットワークの確立
- ネットワーク・コラボレーションの基盤整備

ICT利活用の高度化

- ICTによる先行的社会システム改革
- コンテンツの創造・流通・利用促進
- ユニバーサルデザインの導入促進
- ICT人材活用

利用環境整備

- 「影」に関する課題の整理・明確化
- ICT安心・安全21戦略の推進
- 顕在化しつつある重要な課題への対応
- ユビキタスネット社会憲章の制定

国際戦略：国内にとどまらず、国際的な市場やネットワークを視野に入れた政策を推進(アジア・ブロードバンド計画の推進によりアジアを世界の情報拠点に)

技術戦略：重点分野の研究開発や標準化を戦略的に推進するとともに、持続的発展に向けたイノベーションを促し、国際競争力を高める

現状

およそ1割の自治体において
ブロードバンドサービスが未提供であり、
地域間格差が存在

45%の利用者がICTが
問題解決に役立つと評価、
用途はウェブサイト閲覧等に限定

利用者の約3分の1が、
インターネット利用に不安感

2005年までに世界最先端のIT国家となる

1 「現状評価」に関する進め方

(1) 現状評価を行う趣旨

我が国の成長力強化に向けた道筋を検討し、新たな政策を策定するにあたり、現状の政策を客観的かつ包括的に評価するため、u-Japan政策で目標を示した、ユビキタスネットワーク整備、ICT利活用の高度化、利用環境整備、の3項目に関し、詳細な評価分析を実施する。

(2) ICTに係る現状評価の方法等

について、国際機関等で公表された統計データを利用して、独自の分析を行う。
について、インターネット調査[回収目標:約2千]を実施し、利用者・有識者を含めた評価を行う。

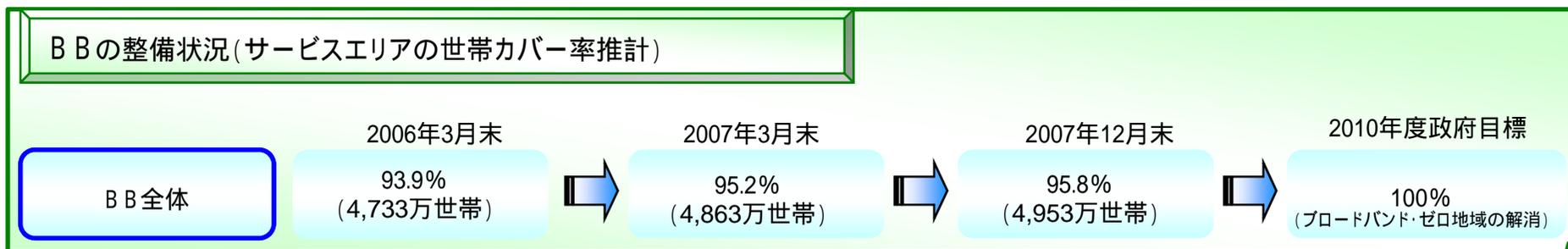
(3) スケジュール

について、国際比較したデータは、総務省により報道発表[3月18日]。
について、調査結果を分析のうえ、4月下旬に報道発表を予定。

1 - ユビキタスネットワーク整備

U-Japan政策で示した目標 2010年までに国民の100%が高速又は超高速を利用可能な社会に

現状評価 総論 ブロードバンド(BB:高速又は超高速)の利用可能な国民は、95.8%(07年末)



出典：総務省調査

現状評価 各論

1 評価分野と評価指標

ユビキタスネットワークとしてのインフラ基盤の整備状況について、以下の6分野、12指標で国際比較。

6分野	利用料金	高速性	安全性	モバイル度	普及度	社会基盤性
12指標	電話基本料金 BB料金	光ファイバー比率 BB速度	安全なサーバ数 Bot感染PC台数	3G携帯率 携帯電話普及率	インターネット普及率 BB普及率	インターネットホスト数 ICT投資割合

2 評価結果【資料2 日本のICTインフラに関する国際比較評価レポート概要 を参照】

1 - ICT利活用の高度化

U-Japan政策で示した目標 2010年までに国民の80%がICTは課題解決に役立つと評価する社会に

現状評価 総論 ICTが課題解決に役立つと評価する国民の割合【アンケート回答を集計】

現状評価 各論

1 評価分野と評価方法

利用したことがあるICTについて、役立つと評価する程度について、下記の10分野で質問。

医療・福祉分野 教育・人材分野 就労・労務分野 行政サービス分野 文化・芸術分野 企業経営分野
環境・エネルギー分野 交通・物流分野 安心・安全分野 電子商取引分野

2 課題の抽出

(1) 利用したことがあるICTについて、より役立つための課題項目として、下記の6項目について質問。

身近での提供 利用料金 利用手続 セキュリティ 使い勝手 その他

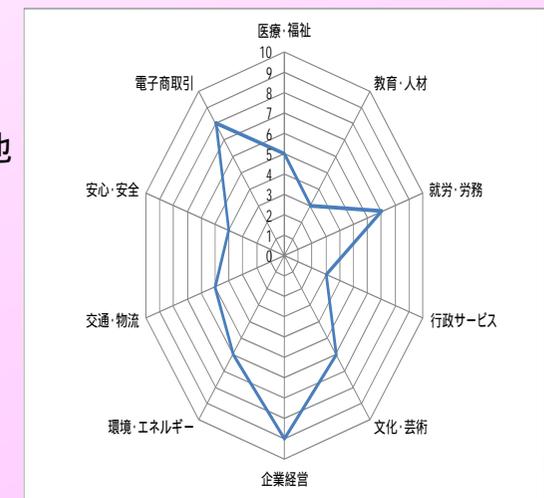
(2) 利用したことがないICTについて、その理由について、以下の6項目について質問。

必要性 身近での提供 利用料金 利用手続 セキュリティ その他

3 評価結果の取りまとめイメージ

分野別の役立ち度等について評価結果を、レーダーチャートにプロットし、利活用が遅れている分野を整理するとともに、利用されている又は未利用のICT分野の課題を明らかにする。

【レーダーチャートのイメージ】



1 - 利用環境整備

U-Japan政策で示した目標 2010年までに国民の80%がICTに安心感を得られる社会に

現状評価 総論 ICTに安心感を得ている国民の割合【アンケート回答を集計】

現状評価 各論

1 評価分野と評価方法

安心してICTが利用できるかについて、下記の10分野について、質問。

プライバシーの保護 情報のセキュリティ確保 電子商取引環境の整備 違法・有害コンテンツ、迷惑通信への対応
知的財産権への対処 新たな社会規範の定着 情報リテラシーの浸透 地理的ディバイドの克服
地球環境や心身の健康への配慮 サイバー社会に対応した制度・慣行の整備

2 課題の抽出

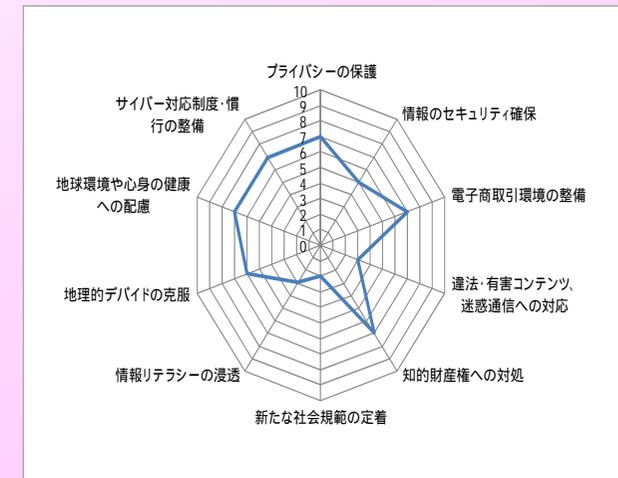
上記の10分野から、下記の課題が発生していると思われるものを選択。

- (1) 社会的にみて影響の大きい問題や被害
- (2) 法制度整備や技術開発等による対応の遅れ

3 評価結果の取りまとめイメージ

分野別の安心度等について評価結果を、レーダーチャートにプロットし、安心度の低い分野を整理するとともに、社会的影響度が高い或いは対応が遅れていると認識されている課題を明らかにする。

【レーダーチャートのイメージ】



2 「社会の将来像」に関する進め方

(1) 社会の将来像を検討する趣旨

我が国の成長力強化に向けた道筋を検討し、具体的に示すため、「完全デジタル元年」以降の社会像について、2015年までに実現が見込まれるICT関連の技術等デジタル元年以降の生活・産業面での社会像に関する国民や有識者の意識等を整理し、具体化を図る。

(2) 国民意識調査の方法等

について、公表された資料を基に総務省において整理する。
について、インターネット調査[回収目標:約2千]を実施し、利用者の意向を把握するとともに、有識者ヒアリングを行う。

(3) スケジュール

について、3月中を目途に作成。
について、4月上旬に1次案を作成し、5月末中を目途に確定。

2 - デジタル元年以降の社会像 - 技術イメージ -

2015年を念頭にICT関連の主な製品や技術を具体化

- ・ UNS戦略プログラム^(注)等のユビキタス社会に向けた研究開発の進展動向を踏まえつつ、実現可能性の高い技術を活用した具体的なICTの利活用のイメージを構築。

注 「UNS」とは、「ユビキタスネットワーク社会 (the Ubiquitous Network Society)」に向けた重要研究開発・戦略プログラムの頭文字を取った略称。

- ・ 技術の実現可能性に加え、市場ニーズの動向[可能であれば定量的に把握]に留意。
- ・ 技術を具現化した具体的製品・サービスのイメージを整理。

【取りまとめイメージ】

製品・サービス

新聞や広告(ポスター)に
利用可能なフレキシブルシート
ディスプレイ、より高精細な大型
(70インチ以上)ディスプレイや
3D表示ディスプレイ

主たる要素技術のロードマップ

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
ディスプレイ	37~65インチ ハイビジョン (1080P FHD)		70インチ以上のディスプレイ (2k x 4k)			~100インチ級の ディスプレイ		~100インチ級のディスプレイ (走査線数4k x 8k)		
	ガラス 32~103型		ガラス32~120型			有機EL 30~60インチ		3Dディスプレイ(3次元空間へ の3次元画像投影技術)		
フレキシブルシート ディスプレイ	基盤ガラス 薄型化		プラスチック 基板				有機EL30~40型 (フレキシブル基板)		有機EL40~60型 (フレキシブル基板)	
ナテック応用 電子ペーパー メディア	スタティックペーパーメディア 解像度200PPI コントラスト比8:1 ページ切替1秒			ダイナミックペーパーメディア 解像度300PPI コントラスト比12:1 ページ切替0.3秒				アクティブペーパーメディア 解像度300PPI コントラスト比30:1(ケルビア並)、反射率60% 動画対応		

出典：技術戦略マップ2005,2007
(経済産業省)を基に総務省作成

2 - - デジタル元年以降の社会像 - 生活面 -

u - Japan政策策定時の将来イメージ(生活面)



2015年を念頭に、生活面で期待されるICTの利用イメージを具体化

・ インターネット調査を実施

ICTの利用イメージに対する実現への期待度について、下記の10分野毎に把握。

医療・福祉分野
企業経営分野

教育・人材分野
環境・エネルギー分野

就労・労務分野
交通・物流分野

行政サービス分野
安心・安全分野

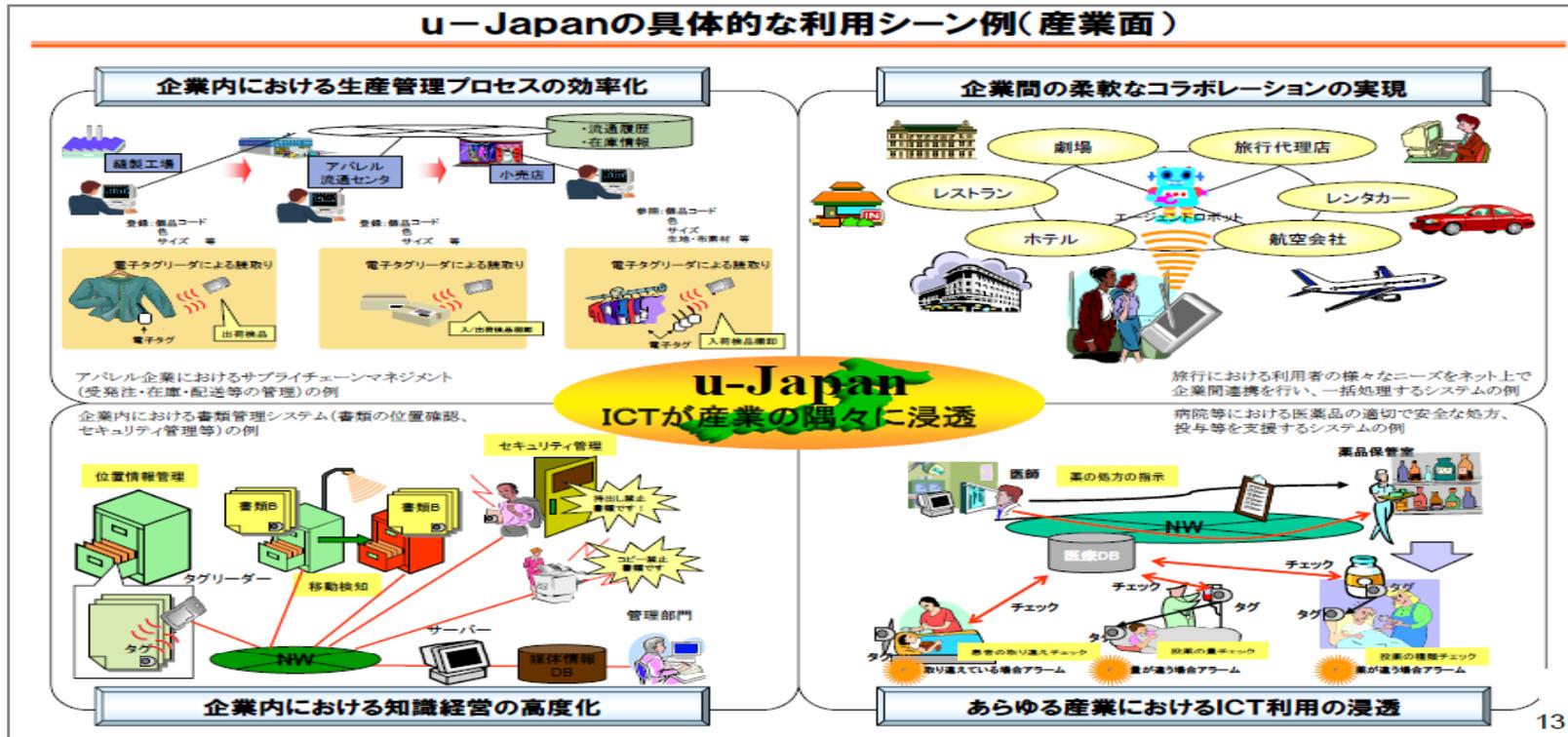
文化・芸術分野
電子商取引分野

・ 有識者へのヒアリング調査を実施

期待度の高い分野・利用イメージのうち、実現性が高いものを精査し、具体化する。

2 - ー デジタル元年以降の社会像 - 産業面 -

u - Japan政策策定時の将来イメージ(産業面)



2015年を念頭に、産業面で期待されるICTによる変革のイメージを具体化

- ・ 有識者へのヒアリング調査を実施
- ・ 成長力につながる実現性が高いものを絞り込み、産業像の具体的なイメージを構築。